

# 令和5年度 南アルプス市立若草南小学校 後期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校  
校長 小林 正彦

## 令和5年度 小中一貫校 若草南小学校経営方針

### I 若草地区小中一貫校教育目標

「よく学び 心豊かでたくましい児童生徒の育成」

#### 目指す児童生徒像

自ら学び、深く考える児童生徒（知育）  
心豊かで 思いやりのある児童生徒（徳育）  
健康でたくましい児童生徒（体育）  
意欲をもち 最後までやり抜く児童生徒（意欲）

### II 学校教育目標

「学びを深め 心豊かな たくましい子ども」

具 体 目 標 自ら学び 深く考える子ども (知)  
豊かな心で 思いやりのある子ども (徳)  
体をきたえ 最後までやりぬく子ども (体)

#### 目指す学校像

- 笑顔あふれる学校
- 学び合い 高め合い 信頼し合う  
地域と共にある学校

#### 育てたい児童像

- 人の痛みがわかる思いやりのある児童
- 自分の考えをもち、チャレンジする児童
- 若南プライドをもち、ふるさとを愛する児童

若南プライド：地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める、積極的な活動に取り組む精神・自他の尊重・多様性を認め合う精神

### III 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。
- 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。
- 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。
- 5 特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室）の充実に努める。
- 6 児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

### IV 具体的な取組

#### 1 児童や地域の実態をふまえた適切な教育課程の編成と実施に努める。

- (1) 新学習指導要領の理念をふまえた若草地区小中3校の9年間を見通した教育課程の編成
- (2) 幼稚園・保育園・若草小学校・若草中学校との連携を考えた教育課程の編成
  - ◆中学生や園児との交流推進 ◆情報交換会の充実 ◆児童会・生徒会活動の交流会の実施
- (3) 各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事を含めた特別活動など横のつながりと異学年間の縦のつ

ながりを考えた効果的な教育課程の編成

- (4) 全教育活動を通じた体系的なキャリア教育の推進
  - ◆栽培活動 ◆地域探検や施設見学 ◆福祉体験 ◆二分の一人成人式 ◆キャリアパスポートの活用
- (5) 学校内外の教育資源の活用と体験学習の充実
  - ◆地域教材・人材の活用 ◆体験的活動（地域学習を含）

## 2 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

- (1) 学習意欲の向上や基礎的・基本的事項の確実な定着を意識した授業づくり
  - ◆反復繰り返し学習 ◆市単講師によるTTや少人数指導
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業づくり
  - ◆若南学習スタンダード（学習モデル・学習プロセス・学習ルール）の定着化
  - ◆問題解決的な学習展開、見通しと「対話」のある授業づくり
- (3) SDGsの視点を取り入れた学習活動
  - ◆自然環境、資源、貧困など地域、世界の諸活動について自らの課題として考える学習活動
  - ◆若草地区3校の児童会・生徒会との協同活動の実施
- (4) 思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の伸展
  - ◆ICT利活用 ◆単元末評価問題の活用 ◆協働的学習体制の充実 ◆外国語教育の充実
- (5) 組織的・計画的・継続的な校内研究の充実
  - ◆学級づくりと授業実践を中心とした校内研究の推進 ◆一校一実践・一人一実践の取組
- (6) 家庭学習の習慣化とアウトメディアの取組
  - ◆家庭学習の手引きの活用 ◆家庭学習取組強化週間 ◆主体的に取り組む学びノートの活用
  - ◆長期休業中のアウトメディアの取組◆SNS、オンラインゲームについての防犯講話実施

## 3 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める人権教育の推進
  - ◆人権尊重の理念に基づく教育活動
  - ◆話の聞き方 みとめ合い名人アイコンタクトのいねなずきがおオッキー  
あいづち名人あなるほどのいねそれのうんわかるよへーそうなんだーすごい
  - ◆場に応じた丁寧な言葉遣い
- (2) 全ての子の居場所のある居心地のよい学級経営の充実
  - ◆所属感、自己有用感、自己肯定感を持たせる取組の工夫 ◆スリンプルプログラムの実施
  - ◆Q-Uの活用◆学校生活アンケートの活用 ◆SOSの出し方に関する教育の実践
- (3) 学校教育全体を通じた道徳教育の充実
  - ◆考え、議論する道徳の推進
- (4) 児童会を中心とした仲間づくり・集団づくり
  - ◆あいさつ運動 ◆縦割り班活動 ◆ボランティア活動
- (5) 読書活動・音楽活動の推進
  - ◆朝読書の効果的実施 ◆図書集会の活用 ◆読み聞かせの取組 ◆歌声タイム ◆音楽会
- (6) 集団生活のルールやマナーの徹底
  - ◆月ごとの生活目標 ◆あいさつ運動 ◆無言清掃 ◆全校集会や全校放送の活用
  - ◆若南プライド「心のやりとりきちんと**あいさつ**・心を向ける**返事**・心をそろえる**くつそろえ**」

## 4 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 運動の日常化による基礎体力づくり
  - ◆体育的行事の計画的実施 ◆「健康・体力づくり一校一実践運動」の取組
- (2) 粘り強く最後までやり抜く意思を育てる指導支援
  - ◆体育授業の充実 ◆粘り強さを大切にした学習指導の充実
- (3) 基本的な生活習慣の確立と保健指導の充実、給食指導を中心に食育の充実

◆たよりや掲示物、学級指導、保健集会の活用 ◆給食週間の取組

## 5 特別支援教育の充実に努める。

- (1) 児童の実態に応じた特別支援学級の運営
- (2) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営
  - ◆特別支援学習会の実施 ◆ユニバーサルデザインの活用
- (3) 交流学級・在籍学級の担任、保護者・関係諸機関との連携を活かした指導支援の充実
  - ◆機能的なケース会議開催 ◆外部の専門機関や関連行政機関との連携
  - ◆「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用
- (4) サポートルームわかくさのセンター的機能の充実
  - ◆校内外のニーズをもつ児童のアセスメント ◆教育相談

## 6 児童の安全・安心を守り、家庭や地域に開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 小中一貫校の取組推進
  - ◆若草地区小中3校との連携・交流 ◆地域人材の活用 ◆地域行事への参加・地域貢献
- (2) 全教職員が「一致協力」、連携・協働し支え合う教職員組織「チーム若南」
- (3) 自らの命は、自ら守る「危険回避能力」の育成
  - ◆地震・火災想定避難訓練 ◆不審者対応訓練 ◆救命救急法訓練 ◆引き渡し訓練 ◆交通安全教室  
自転車教室の実施 ◆起震車・煙体験の実施 ◆防犯講話 ◆危機管理マニュアルの充実と改善
- (4) 感染症対策を含めた、自己の健康安全に関する保健指導の徹底
- (5) 学校評価や保護者アンケートを活かしたPDCAサイクルによる学校運営、教育方針の改善
  - ◆自己評価・学校関係者評価の実施 ◆児童・保護者アンケートの実施
  - ◆行事ごとの教職員や保護者アンケートと総括の実施
- (6) 授業参観、各種たより、HP、安心メールによる情報発信
  - ◆学校開放日、授業参観、学校行事への参加等教育内容の積極的公開
  - ◆学校通信・学年通信・学級通信・保健だより・図書だより・給食だより等の発行
  - ◆HPでの情報発信や安心メールを使った緊急連絡の活用
- (7) 学校評議員制度の効果的活用とPTAや地域との連携協力
  - ◆地域ボランティアの活用 ◆学校評議員会の開催 ◆PTA専門部の活動

## 令和5年度 学校評価の実施について

### 【ねらい】

学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目標を設定し、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、学校として組織的・継続的に改善を行うことができる。また、結果を公表することによって、保護者・地域住民と情報や課題を共有し改善を進めていくことができる。(開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり) 教師にとっては自分自身の教育活動を振り返り、改善をしていくひとつのきっかけになる。

### 【日程】

昨年度までは、1学期末に教職員及び児童へのアンケート、2学期末に教職員及び児童への2回目のアンケートと保護者へのアンケートを行っていた。

令和5年度より、市教委と協議し、1年間を見通した教育活動の改善を図ることができるよう、児童及び保護者のアンケートを2学期末の1回とした。

- アンケートについては、教職員、保護者、児童とも GoogleForms を利用する。
- 第1回職員アンケート
  - ・7月3日(月)～7月14日(金)に実施する。
- アンケート結果の比較・考察(第1回自己評価 夏休み中)
- 第2回学校評議員会(学校関係者評価委員会)
  - ・9月5日(火)午後5時30分～
    - ①1学期学校評価についての考察
    - ②重点課題の絞り込みと取組方法
- 保護者アンケート
  - ・12月1日(金)アンケート依頼の配付
  - ・12月11日(月)回答しめきり
- 児童アンケート、第2回職員アンケート
  - ・12月1日(金)～11日(月)に実施
- アンケート結果の比較・考察(第2回自己評価)
  - ・12月10日(火)～1月9日(火)
- 第4回学校評議員会への諮問(学校関係者評価委員会)
  - ・1月23日(火)
- 南アルプス市教育委員会へ提出
  - ・1月31日(水)まで
- 保護者への報告
  - ・3月1日(金) ホームページ上で公開

## 【 評価方法 】

教職員に対して WEB 上のアンケート機能 (Google Forms) により回答を得た。質問に対しての回答選択肢は、基本的に4段階になっている。

- A：とても・よく~している
- B：だいたい~している
- C：あまり~していない
- D：~していない
- (E：対象外)

このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価として捉える。AとBのどちらを選ぶかCとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりもA・B合わせてのプラス傾向C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が全体的な傾向をつかみやすくなる。

そこで A・B・C・Dの選択肢を点数化し A=4 B=3 C=2 D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。

○全体にプラス評価 (A・B) が多ければ、平均点は2.5以上になり、4点に近づいていく。

○全体にマイナス評価 (C・D) が多ければ、平均点は2.5未満になり、1点に近づいていく。

なお、自己評価まとめの表には、比較として昨年度の1学期の平均点数を載せてある。ただし、「課題・意見」として、C及びD評価をつけた場合に具体的な内容を書いてもらうこととした。

また、回答できない項目については、E：対象外 を設けているが、これについては点数には含めないものとする。今後、保護者のアンケートにも回答の選択肢として E：わからない を設けるが、これも点数には含めない。

## 第2回職員アンケートの考察

### 【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占めた。平均点数は、1項目を除き3.4を上回り、学校長の指導のもと、学校教育目標達成のために全職員が努めていることがわかる。

一つ一つの項目に目を向けると、明らかな有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目も見られる。

肯定的な回答が多い項目は、本校の強みとして、継続して取り組んでいくとともに、改善する必要のある項目については具体的な方策を立てて取り組んでいきたい。

### 【強みとなっている項目 (平均点数が3.7以上)】

- ①子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている
- ⑥児童理解に努め、不登校・問題行動等への予防に努めている
- ⑮保護者からの各種相談について、誠実に対応している

### 【弱みとなっている項目 (平均点数が3.0以下)】

- ⑧校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある

## 1 学校生活について

「子どもたちが、楽しく学校生活を送れるように努めている」については、肯定的回答が100%であった。子どもたちが、学校は楽しいと思い、通学することは学校・保護者・地域の共通の願いである。学校生活アンケートやQUTテストなどでマイナス傾向の児童にしっかりと目を向けるよう努めた。

「すすんであいさつをする指導の充実」については、教職員・児童会本部等が率先してあいさつして、「気持ちの良いあいさつ」が「誰とでもできる」児童の育成に取り組んだ。その結果、児童のアンケートでは、あいさつについて90%が肯定的評価をしている。

## 2 学習指導について

「子どもに基礎的な学力が身に付く指導」「児童を授業に集中させるための指導」とも、A評価の割合が1学期より高くなった。教職員が高い意識を持ち、授業改善に努めてきたことの表れであるにとらえることができる。

わかりやすい授業の展開と児童の学力向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。今後も、タブレット端末の利用が児童の意欲向上につながっていることを検証しながら進めていきたい。基礎基本の定着に向けて、一人ひとりの習熟の度合いに対応しながら支援体制も考え、個別対応にも力を入れていく。

## 3 家庭学習について

「家庭学習を定着させるための工夫」では、A評価の割合が若干上がり、マイナス評価はなかった。家庭学習強化週間の取り組み、学級・学年だより等で、学びノートや家庭学習見守り週間のことを取り上げ、保護者へ周知することも行った。児童の意欲の向上、より良い学習につながったと思われる。

家庭学習は、保護者の協力が必要不可欠である。全校での取り組みや学年・学級での取り組みをさらに進め、家庭学習の定着を図っていきたい。

## 4 生徒指導について

一人一人が自己肯定感、自己有用感を感じられる居心地の良い学級づくりが、楽しい学校生活の基盤となり、学習活動を支える基盤となる。

「児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている」については、前期と同様にA評価が66%と7割近かった。様々な児童がいる中でお互いの良いところを認め合う活動を仕組み、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりを目指していることがうかがえる。

生徒指導上、様々な諸課題があり、その都度、校長を中心とし組織的に対応していくことを徹底していく。また、保護者と連携を図って取り組むことが不可欠である。不登校やいじめ等につながる兆候の早期発見と早期対応に努めるとともに、これからも、報告・連絡・相談を密に行い、管理職・生指担当・養護教諭・コーディネーター等を中心とし、組織的に対応していきたい。

## 5 学校運営について

A評価が14%、平均得点が3.0と一番低い項目であった。校務分掌によって、仕事内容に軽重があり、個人的に負担があったという課題が指摘されている。教職員が与えられた分掌を責任をもって進めている様子が見えるが、各担当内やグループごとに組織的な業務を行っていくこともできる。また、高学年の教科担任制も踏まえる必要がある。別途職員から具体的な解決策の案を問うて、次年度校務分掌に生かしていく。効率的な会議の運営、報告・連絡・相談の連携が取れる体制は、ICTの活用を図りながらさらに整えていきたい。年齢的に若く経験の浅い教職員の割合も増えているので、その育成も急務である。

## 6 学校行事について

肯定的評価が100%であり、行事の成果は認められる。しかし、新指導要領により授業時数が増えたことで従来通りの行事への取り組み方法では、授業時数確保に影響が出てしまう。行事について、コロナ禍の経験を生かしながら、常にPDCAサイクルを意識し、評価・反省を行いながらバランスのある教育活動を目指していきたい。

行事にかかわらず、様々な場面における児童指導についても、保護者・地域に発信し理解してもらうことを進めていく必要もある。目的をしっかりと見据え、児童の安心安全を第一に考え、職員間での共通理解を図りながら無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

## 7 校内研究、特別支援教育について

「特別支援教育に対する校内支援体制が機能している」は、C評価の割合が減っている。特別な配慮が必要な児童が多く、個々に関わる時間が多くなり担任の負担が大きく、人を配置してほしいという指摘が前期にあった。交流学級、支援学級、養護教諭、教務の教職員が連携してきたが、人的配置には限りがあるため厳しい状況があり、喫緊の課題である。

校内研究では、ICT教育を進めながら、児童に身に付けさせたい力を伸ばしていくことが私たち教師に課せられた大きな課題である。

校内研究会は、内容も工夫され、学び合う雰囲気がよく、勉強になる。今後も、研究主任を中心に、授業研究を含めて研究を進めていきたい。

## 8 施設・設備・安全管理について

「緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている」のA評価が38%と低かったが、避難訓練が雨天のため避難行動ができなかったことや、感染症の影響により延期となったことが表れていると思われる。また、不審者対応についての指摘もあった。不審者対応については「危機管理マニュアル」に記載されており、年度当初に確認はされている。年度途中においても再度確認し、常に改善が図られるようにしていきたい。

今後、引き渡し訓練は、来年度に向けて若草地区3校合同で行う計画を進めていく。

定期的な訓練や安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導にあたりたい。また、保護者や地域住民の協力も欠かせない。通学路については、地域・見守り隊の方々の献身的な働きかけで、改善が図られている。今後も見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていく。

## 9 学校と家庭との連携について

「保護者からの各種相談について、誠実に対応している」については、A評価が81%、平均点も3.8と高かった。学校と保護者が共通理解を図っていることがうかがえる。今後も同じ歩調で進むことが望まれる。PTA総会や学年部会等も参集して行ったが、混乱もなく実施できた。その背景には、保護者と教職員の連絡・連携が密に行われ、信頼関係を築いていることと思われる。4月から5月にかけて、授業参観や家庭訪問が実施できたことも、学校と児童と保護者をつなぐ機会としてとても良かったと思う。

運動会や音楽会も実施方法について工夫しながら実施をしたが、今後も開催方法についてさらに検討を進めていく必要がある。

令和5年度 学校評価(後期) 教職員アンケートのまとめ ※項目によっては職員の職務内容上合計数に違いがあります。

\* 4段階評価 A: そう思う B: ややそう思う C: ややそう思わない D: そう思わない

	番号	評価項目	評定				平均点数				課題・意見
			A	B	C	D	R5前期	R5後期	R4後期	R4R5差	
1 学校生活について	①	子どもたちが、楽しく学校生活を送れるよう努めている。	73%	27%	0%	0%	3.8	3.7	3.8	-0.1	・自分自身、挨拶が苦手なところがあるが、強制するのではなく、子どもたちが自分からできるような指導を心がけている。
	②	すすんであいさつをする指導の充実に努めている。	69%	24%	7%	0%	3.7	3.6	3.6	0.0	
2 学習指導について	③	子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	62%	38%	0%	0%	3.5	3.6	3.6	0.0	
	④	児童を授業に集中させるための指導(聞く態度)に努めている。	64%	36%	0%	0%	3.5	3.6	3.4	0.2	
3 家庭学習について	⑤	家庭学習を定着させるために工夫している。	41%	59%	0%	0%	3.3	3.4	3.3	0.1	・家庭学習名人の取り組みによって、保護者の協力もありながら家庭学習の定着が進んでいると思う。しかし、家庭に寄って取り組み具合に個人差があるのが課題。
4 生徒指導について	⑥	児童理解に努め、いじめ・不登校・問題行動等への予防に努めている。	66%	34%	0%	0%	3.7	3.7	3.5	0.2	
	⑦	生徒指導について、組織的かつ迅速に対応している	59%	41%	0%	0%	3.5	3.6	3.6	0.0	
5 学校運営について	⑧	校務分掌は適切に分担され、意欲的に取り組める環境にある。	14%	71%	14%	0%	3.2	3.0	3.5	-0.5	・大変重要な分掌を任せられ、自分のもっている力が最大限発揮できる人事をしていただいて感謝しています。自分自身もその気持ちに答えようと努力しています。他の先生方にも大変気を使っていたり助けていただいていることも理解しています。ですが、高学年担任という立場もあり、例年以上に負担に感じている部分が正直あります。プラス分掌への偏りが気になります。自分だけが、大変な思いをしているとは全く思っていませんが、分掌によって仕事量も圧倒的に違いがあることはほかの先生方を見ても感じますし、苦勞もされています。そういった面で意欲的に取り組める環境にするには改善が必要かなと思います。 ・PTA保体部の仕事量が多い。奉仕作業の運営や準備、役割分担等は体育主任だけでなく、上手く分担して取り組んだ方が良い。 ・行事が多いこと学習内容が難しいこと、加えて教科担任制の導入など、高学年の先生方の負担は大きいと思う。高学年の校務分掌はもっと軽くすべきだと感じる。 ・分掌によって仕事量に差がある。 ・負担に偏りがあったと思う。
6 学校行事について	⑨	学校行事は職員の共通理解のもと、子どもたちが楽しく参加できるように計画されている。	48%	52%	0%	0%	3.5	3.5	3.6	-0.1	
7 校内研究について	⑩	校内研究会に主体的に参加し、授業力の向上に努めている。	50%	46%	4%	0%	3.4	3.5	3.6	-0.1	・担任の先生が休んだときの体制づくりや連絡調整応が不十分だと感じるがあります
	⑪	特別支援教育に対する校内支援体制が機能している。	50%	47%	3%	0%	3.4	3.5	3.5	0.0	



8 施設・設備・安全管理について	⑫	安全点検を計画的に実施し、危険箇所・修理箇所の対応ができている。	59%	41%	0%	0%	3.6	3.6	3.8	-0.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で不審者侵入や災害が起きた際、迅速に的確な対応ができるか不安である。特に、本校が避難所となる大規模災害の際、開設作業に加わることになると思うが、誰がどう動くか示されていないので一度確認できるとよい。</li> <li>・天候などの関係で、できなかった避難訓練もあるので、確認しておきたい。</li> <li>・防犯に対する訓練を行った方がよい。</li> <li>また、放課後は職員入口(北側)は施錠した方がよい。</li> </ul>
	⑬	緊急時の対応(防災・防犯)について共通理解が図られ、計画的に訓練が行われている。	38%	52%	10%	0%	3.3	3.3	3.6	-0.3	
9 学校と家庭との連携について	⑭	授業参観・懇談会・部会を相互理解のために計画し、工夫・改善に努めている。	54%	42%	4%	0%	3.6	3.5	3.7	-0.2	
	⑮	保護者からの各種相談について、誠実に対応している。	81%	19%	0%	0%	3.8	3.8	3.7	0.1	

【自由記述】若草南小のいいところ、課題となるところがありましたら書いてください。

【よいところ】

先生方が温かいのが良いところ。1人に負担がいないかなど、時々みんなで会話をしたら良い。行事などは今のようにみんなで作り上げたい。  
あいさつができる。  
明るく素直な児童が多く、それを生かした教育活動が行われていると思う。  
困った時に、周りの職員が助けてくれているところ。チームで対応できているところが、素敵だと思います。  
子ども達が素直で明るい。  
先生達が日々一生懸命努力している。ところが良いです。  
良いところは、子どもが素直なところ。  
子供たちが素直で、全校の仲がよいと思います。  
子どもたちが素直です。  
職員室の雰囲気非常好くて、働きやすさを感じます。  
教職員の間に助け合いの精神があるところ  
担任する児童以外のことも気にかけているところ  
高学年が主体的になって行動できるところ  
職場の雰囲気がよい。  
若手とベテランが連携して様々な活動に取り組んでいる所が良いと思います。  
支援が必要な児童についての共通理解が図られている。  
子どもたちが素直なところ。  
先生方がその子どもたちをよくみて、良いところを伸ばしているところ。  
保護者対応がとても素晴らしいと思います。  
音楽、ICT、学級経営など、それぞれの強みをもっている先生方ばかりで、日々勉強になります。  
児童が背負っている家庭環境のわりには、子ども達が素直なところ。  
子どもたちが素直で元気であること。  
どの先生も積極的に子どもに関わろうとしてみてくださいと良い点だと感じます。

【課題点】

全体的に子ども達が落ち着いていると思います。忙しく先生方と話をする時間がなかなかとれない。連携不足と感じるところがある。  
課題としては、コロナ世代でもある子ども同士の心の距離がまだ遠い気がしている。子ども同士がもっと近い距離でぶつかり合ったり、その中で絆を深めたりできるような指導が必要だと思う。  
子ども達も多様化しているし、日々忙しい中、連携を大事にしていきたい。  
明るく元気な子が多いという印象の南小の子ですが、不登校の子が増えているように思います。その辺りのことが気になります。  
課題は、あいさつ。  
分掌や人事について、もっと現場の声を取り入れてほしいです。  
教員の数足りていない。  
難しいとは思いますがもう少し支援の人手が増えると助かります。

令和5年度 学校評価（後期） 児童アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項 目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R4	R5	±	
1	①学校（がっこう）は 楽（たの）しいですか。	73%	22%	4%	1%	3.7	3.7	0.0	多くの児童が学校生活を楽しいと感じている。これからも子どもたちが楽しく思える学校づくりを目指したい。 ⑥の項目を除き、肯定的評価が85%を超えている。友だちと良好な関係が気付いている児童が多いことがうかがえる。学校生活を通し協力して取り組みができていくのが分かる。発達段階に合わせ当番活動や係活動、さらには自主的な児童会活動へと協力して取り組める態度を継続的に育てていきたい。 あいさつについては、児童会活動でも取り組んできたが、今後も呼びかけや活動を継続し、地域の方々へのあいさつも含め、あいさつができる児童の育成に努めていきたい。
2	②あいさつをしっかりしていますか。	56%	35%	6%	2%	3.5	3.5	0.0	係活動や当番活動については意識の高さがうかがえる。高学年が、下級生のよき見本となり本校の誇れる文化となっている。
3	③学級（がっきゅう）での係（かかり）や当番（とうばん）のしごと、そうじをしっかりしていますか。	77%	20%	2%	1%	3.8	3.7	-0.1	C、D評価をしているのは低学年に目立った。その時の心情でつけていることもうかがえる。高学年でC、D評価をつけている児童には、注意深く観察し、個別に対応して行くことが必要である。
4	④学校（がっこう）の授業（じゅぎょう）がわかりますか。	55%	39%	4%	2%	3.6	3.5	-0.1	学校生活の多くを占めている授業については、引き続き教材研究や指導法の工夫などに努め、わかりやすい授業・楽しい授業を目指し取り組んでいきたい。 授業中に発言、質問、意見を言うことについては、否定的評価の割合が高い。数値は昨年度から若干高くなってはいるが、ほかの項目と比べると相対的に低くなっている。昨年度も同じような状況で、本校の課題ともいえるだろう。担任は発表しやすい雰囲気づくりや発問の工夫を行うなど課題解決に努めている。児童の意見を一つひとつ丁寧に取り上げていく指導を継続する中で、「手を挙げて」という意欲に繋がられるように、これまでの手段を見直すことも必要である。
5	⑤先生（せんせい）や友達（ともだち）の話（はなし）をしっかり聞いていますか。	72%	24%	3%	0%	3.7	3.7	0.0	家庭学習、自主的な学習については、家庭の協力を得ながら、子供たちの意欲を高めるための具体的な取り組みを引き続き探していきたい。
6	⑥授業中（じゅぎょうちゅう）に発言（はつげん）や質問（しつもん）または意見（いけん）を言（い）いますか。	42%	33%	18%	8%	3	3.1	0.1	職員間の情報交換を定期的に行い、継続的に学校生活のルールの指導を行っている。児童会本部や委員会の取組と連携しながら規律ある学校生活を送れるようにしていきたい。
7	⑦家庭（かてい）で宿題（しゅくだい）や自主学习（じしゅがくしゅう）を自分（じぶん）からすすんでいますか。	52%	36%	8%	4%	3.3	3.4	0.1	きまりや約束を守ることに、いじめを許さないことについての項目は、いずれも肯定的な評価が90%を超えている。引き続き、道徳の授業の充実を図りつつ、保護者や地域の方々、外部機関との連携を取りながらいじめや不登校の未然防止に努めていきたい。
8	⑧こまったとき、だれかに相談（そうだん）できますか。	59%	27%	8%	5%	3.4	3.4	0.0	児童は、さまざまなボランティアの方々をはじめ多くの地域の方に支えられている。地域の方に支えられて安全で安心できる生活を送れている事を理解させ、感謝の気持ちが持てるように指導していきたい。
9	⑨学校（がっこう）のきまりや約束（やくそく）が守（まも）られていますか。	64%	30%	5%	1%	3.7	3.6	-0.1	
10	⑩いじめや悪（わる）いことをしている人を見たら、先生（せんせい）た友達（ともだち）にいますか。	64%	27%	6%	2%	3.6	3.5	-0.1	

令和5年度 学校評価（後期） 保護者アンケートのまとめと考察

A：そう思う B：ほぼそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

評定は小数第1位を四捨五入、合計が100%にならない場合もある。

No	項 目	評定				平均点数			考察
		A	B	C	D	R4	R5	±	
1	児童について① ①子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。	61%	32%	6%	1%	3.4	3.5	0.1	・肯定的評価が93%となり、概ね良いという評価をいただいた。児童が楽しいと思えることが、学校教育活動の基本と捉えている。今後も学級づくりを中心に、教職員が一丸となって居心地のよい楽しい学校を目指していく。
2	児童について② ②子どもは、友だちと仲良く生活している。	64%	32%	3%	1%	3.5	3.6	0.1	・肯定的評価の割合が96%である。授業をはじめ学校教育全体の中で、お互いを認め合えるより良い人間関係づくりに努めている。学級活動や児童会活動、学校行事を通しコミュニケーション能力を伸ばす指導も一層充実させていきたい
3	児童について③ ③子どもは、家でも地域でもきちんとあいさつをしている。	38%	50%	10%	2%	3.1	3.2	0.1	・点数は0.1ポイント増えているが、A評価の割合は、38%と低くなっている。学校生活において基本的な生活習慣を身に付けさせることは大変重要なことである。家庭や地域と連携をとりながら、一層の定着をめざしていきたい。
4	児童について④ ④子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	29%	45%	22%	5%	3	3.0	0.0	・否定的評価の割合が一番高い項目となっている。A評価も30%を切っている。児童の改定学習に関する項目の肯定的評価は88%となっており、家庭学習が保護者にとり課題となっていることがわかる。家庭との連携を密にし、充実した家庭学習が図れるよう進めていきたい。
5	学校について① ⑤学校は、基礎・基本の定着を図る取組や学習のつまずきなどに積極的に取り組んでくれている。	50%	44%	5%	1%	3.4	3.4	0.0	・概ねよいという評価をいただいた。各担任を中心に教職員による支援体制を構築し、授業支援を行っている。今後も学習内容の確実な定着に向け、児童一人ひとりの学習状況に合わせた指導・支援が行えるよう努めていきたい。
6	学校について② ⑥学校は、思いやりの心や社会のルールを守る態度を育てている。	55%	41%	2%	1%	3.5	3.5	0.0	・肯定的評価が96%と、高い評価をいただいた。居心地のよい学校生活を送るためにも教職員が共通認識のもと、同じスタンスで指導に当たっている。児童会の取り組みもあり、子どもたち同士での声掛けも見られ、意識の高まりが見られた。
7	学校について③ ⑦いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	47%	49%	2%	1%	3.3	3.4	0.1	・今年度の道徳公開授業は、学校開放日に1時間の道徳授業を設定した。考え議論する道徳の授業作りを目指していく。道徳教育は、教育活動全体を通して行っていくことを改めて確認したい。また、お互いの考えを認め理解し合える学級・学校づくりに努め、豊かな感性を持ち多様性を認め合える児童の育成を目指していく。
8	学校について④ ⑧学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	59%	40%	1%	0%	3.5	3.6	0.1	・高い評価をいただいた。学校の指導重点の一つである「安心・安全な学校」をめざし、施設の安全管理と安全教育に努めている。GIGAスクール構想によるICT機器の効果的な活用も含め、教材・教具の工夫も行い、わかりやすい授業、楽しい授業づくりに取り組んでいく。
9	学校について⑤ ⑨学校は、授業参観や運動会等で、子どもの様子を見る機会を設けている。（学校開放日を1月に予定しています）	80%	18%	2%	0%	3.6	3.8	0.2	・A評価が80%と高い評価をいただいた。感染症による制限が緩和され、音楽活動や話し合い活動、校外学習等、活動が広がった。豊かな体験・経験につなげていけるよう今後も取り組みを継続していく。
10	学校について⑥ ⑩学校は、保護者からの相談や要望に適切に対応している。	64%	27%	6%	2%	3.6	3.5	-0.1	・C評価の割合が相対的に高く、学校の課題として捉えることができる。児童や保護者の皆様にとり、相談しやすい環境づくり、気持ちに寄り添える環境づくりを大切にしていける。また、スクールカウンセラー等外部の専門家への相談体制も充実させ、チーム若草南小として取り組んでいく。